

2017年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

柳岡 恵理子（新潟県上越市）

私が本事業に応募した一番の理由は、戦争や平和について現地に赴き、そこで学んだことを自分の言葉と感情で伝えられるようになりたいと考えたからです。私は中学校で英語の教員をしています。教科書で戦争を扱った単元を教える際に、書籍や指導書などを通して独学で学んだことを伝えるだけでは不十分であると感じていたため、このような素晴らしい機会をいただいたことは、平和について考えるととても良いきっかけになりました。

8月1日から9日まで行われた「Hiroshima and Peace」での講義や校外学習、平和記念式典への参加など、一生に一度と言っても過言ではない貴重な体験をさせていただきました。講義を受け、他の受講生と意見を交換し、被爆者の方の体験談を伺い、資料館を訪れて得た知識やその時々に関心の中に湧き起こってくる感情は、やはり独学で勉強したものとは全く別のものだと実感しました。

恥ずかしながら、ANT-Hiroshimaの渡部朋子さんの講義の中で、「はだしのゲン」が広島を舞台としたマンガだということを知りました。小学生の頃、「はだしのゲンは怖い。」と友達が話しているのを聞いて以来、自然と避けてきました。そして、同じく小学生の頃、給食の時間に戦争のアニメが放送されるのを怖くて見られなかったことを思い出しました。これまで目を向けられなかった戦争に、真正面から向き合う時が来たことを目の当たりにした瞬間、授業中にも関わらず涙が溢れて来ました。それ以来、きっとこれまでの自分ならばまっすぐに向き合えなかったであろう平和記念資料館の当時の展示物を直視することができ、丁寧に資料を読み、残酷さを心に刻み、自分には何ができるのか考えるようになりました。これは私にとってはとても大きな変化であり、それ以来、広島滞在中はもちろん上越市に戻ってからも、これまでは気に留めなかった戦争に関するテレビのニュースや新聞記事に自然と目が行くようになり、戦争や平和、核兵器についての話題に関心を寄せるようになりました。

「Hiroshima and Peace」(以下H&P)を終了した今でも、「平和とは何か。」という問いに対して答えは出ていません。ある人にそう言ったところ、「答えは出なくていい。答えが出ないから一生かけて考えていくものなんだ。」と言われました。様々な国から参加していた受講生を通して、平和への捉えが国によって違うことを学びました。「平和とは何か。」と最初に問われた時、平和という概念が大きすぎて、私は自分事として捉えられませんでした。しかし、H&Pで沢山の方々から平和について教えてもらい、これまで抽象的なものだと思っていた平和とは「誰かを深く愛すること」「違いを認めること」「心が平和であること」だと知り、具体的にイメージができるようになりました。何も大きなことをしなくてもいい、特別なことをしようとしなくてもいい、他者を認め、自分と同じように他者を大切にすればいいのだと考えられるようになり、心がずっと軽くなった気がしました。

これまでは逃げ腰だった戦争に関する単元を教えることも、今なら自信を持って生徒に平和の大切さを訴えることができると確信しています。自分が見てきたものを、被爆者の方の体験談で聞いたことを、多くの講義で得た知識を、広島で感じたことを、私なりの言葉と感情で伝えられると思うからです。そして、これこそがH&Pに参加させていただいた自分の使命であると考えています。答えが出ない問いを生徒とともに考えながら、平和の尊さを次世代に継承していきたいと思います。

末筆ですが、このような素晴らしい機会を与えてくださった平和首長会議の皆様から

感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【派遣都市への平和活動の提案】

①広島への修学旅行の推進

現在、上越市では、各中学校から代表生徒1名を広島市に派遣し、平和記念式典への参加をメインとした青少年への平和教育を実施しています。しかしながら、一人の生徒の報告を聞くことよりも、実際に修学旅行で広島を訪れ、現地学習をすることの方が多くの生徒が真剣に戦争や平和について考えるきっかけになると思います。修学旅行のモデル案の提案や市からの推奨（助成）をしていただけると推進力になると考えます。

②伝承者による伝承講話の実施

被爆者や戦争体験者の方々による講話の実施はすでに行っていますが、戦争を体験した方々の高齢化に伴い、これからは実施自体が困難になってくる状況が考えられます。そこで、被爆体験や戦争体験を聞いた人に伝承者になってもらい、第二世代として、戦争を語り継ぐ役割を担ってもらい「伝承講話」の実施を提案します。伝承者になる方へ目的や注意事項の説明などを行ってもらい、適正だと判断された方々に上越市から認証をしていただき、学校や地域などへの派遣の斡旋を行っていただければと思います。

③学校への平和教育の働きかけ

上越市では「ユニバーサルデザイン推進事業および非核平和友好都市宣言推進事業メニュー」と銘打って、多くの小・中学校での学習活用事業を行っています。その活動に加えていただきたいものを提案させていただきます。

道徳の時間や総合的な学習の時間での大単元としての平和教育の実施の推進

→学校や学年の児童生徒の実態に応じた平和教育の実施

学校をあげての平和教育

- a) 道徳の時間や総合的な学習の時間内での戦争アニメの視聴
- b) 図書館での戦争マンガや絵本の展示（7月から9月）
- c) 「平和の千羽鶴」の作成と広島への送付
- d) 平和作文や平和ポスターコンテストの実施
- e) 被爆樹木の植樹

④上越市主催広島平和記念式典の実施

8月6日に直江津の平和記念公園で平和記念式典を行う。その案内には、③d)で行ったコンテスト入賞者のポスターを使用する。式典の内容案としては、8:15に一分間の黙とう、市長の講話、案内と同じく③d)で行った平和作文入賞生徒による作文朗読、平和について学んだ市内の生徒の平和宣言など、独自の式次第を作成し、平和を祈念する行事を行う。

【平和首長会議への活動提案】

①『青少年「平和と交流」支援事業』の周知徹底

日本全国ほとんどの自治体が平和首長会議に加盟しているにも関わらず、『青少年「平和と交流」支援事業』の広報をしている自治体は少ないのではないかと感じました。このような素晴らしい機会に参加したい学生は全国に沢山いると思います。学生が対象となる事業なので、加盟自治体から大学などの教育機関へ広報の依頼をするなど、より多くの学生への広報

活動ができればと思います。電子メールやLINEの活用など、学生の目に留まりやすい方法を紹介し、広報活動への協力を呼び掛けるとともに、各大学が広報しやすいように、ポスターの作成・配布をしていただくことを提案させていただきます。

②伝承者による伝承講話の支援活動

厚生労働省は被爆者に代わって体験を語り継ぐ「伝承者」を支援する方針を決めたというニュースを見ました。上述した派遣自治体での「伝承者による伝承講話」を行うにあたり、広島平和文化センターが行っている被爆体験伝承者の3年間の研修を参考に、平和首長会議でも、各加盟都市が実際に組織として行えるように活動を支援をしていただければと思います。

③「核兵器禁止条約」への参加への署名活動

「2020 ビジョン」の成功に向けて、「核兵器禁止条約」への参加を呼びかけるために、より多くの加盟自治体で署名活動を行うための方法を提案します。

- ア) 「2020 ビジョン」の内容と署名用紙を各加盟都市にメールで送信し、各加盟都市は回覧板を使って署名を呼び掛ける。
- イ) 地域の運動会や催し物等がある際に、署名ブースを用意し、来場者に署名をしてもらう。
- ウ) 学校や病院の職員への署名協力を依頼する。

各加盟自治体で署名活動を呼びかければ、大きな力となり、この条約に参加しないことをもどかしく思っている国民の意思を世論として伝えることができると思います。